

## 特別講演 2

### 「大腸を小腸にする?!」

東京慈恵会医科大学腎臓再生医学講座特任教授

小林 英司 先生

小腸と大腸は連続する消化器官であり、機能や構造において重要な違いがあります。小腸は消化酵素や胆汁の働きによって、食物が細かく分解され、栄養素が小腸壁で発達した絨毛から吸収されます。大腸には多くの腸内細菌が存在し、水分を吸収し便が凝縮されて排泄されます。このように、小腸は食物の消化と栄養吸収に主に関与し、大腸は水分吸収と便の形成に特化しています。近年の移植治療の進歩から、小腸が先天的、後天的にない状態に陥った短腸症候群の患者さんに小腸移植という切り札治療が行われていますが、拒絶反応が激しく他の移植治療のように予後がよくありません。残存する大腸の一部を自分の小腸にできたら？そんな自己細胞を用いた再生医療の話聞いてください。